

森林・林業白書（林業白書）の特集について

昭和61年度以降の特集は以下のとおり。

昭和61年度 試練にたつ日本林業とその活力回復に向けて

厳しい林業経営環境に対し、経営タイプ（林業主業型、複合型、小規模経営）ごとの課題を示し、低コスト林業、多様な経営、地域一体となった産地形成等経営の条件づくりを推進すべきことを記述。

昭和62年度 新たな林業技術体系の構築 ～林業技術のルネサンスを目指して～

多様な森林の整備や低コスト化等の要請に答えるために、林業、林産業における技術の発展過程や現状を踏まえ、森林管理、低コスト化、木材利用、バイオマス活用の分野での新たな技術革新への取組の方向等を記述。

昭和63年度 豊かな国民生活のための森林づくり

多様な森林とその整備の現状と課題を検討した上で、森林の働きを高度に発揮するための森林整備の方向を明らかにし、国民共通の財産としての森づくりのあり方を記述。（「みどりの日」制定）

平成元年度 国民のニーズにこたえる木材の供給と国内森林資源の有効利用

木材の利用状況、需要者ニーズ、木材の供給構造の現状について明らかにし、多様なニーズへの対応と国産材供給体制の整備の方向について記述。

平成2年度 森林管理とその担い手の在り方

～森林の役割の発揮に必要な森林の管理とそれを担う林業と林業従事者～

森林資源の状況と管理を担う林業事業者、林業従事者の実態、問題点について明らかにし、今後の担い手対策のあり方、新たな森林管理等の方向（流域管理システム）と国民の支援体制の整備について記述。

平成3年度 森林の管理と山村の活性化

山村の役割と現状、多様な取組等を明らかにし、地域資源である森林の多面的活用や付加価値化を核に、森林地域社会としての山村の活性化を図る方向について記述。

平成4年度 地球環境を守る森林・林業

地球サミット等で示された持続可能な森林経営、適正な木材貿易の必要性について明らかにするとともに、環境創造に貢献する林業と森林を守り支える山村の再生について記述。

平成5年度 森林と木の時代を目指して ～森林・林業、木材産業の30年の回顧と展望～

林業基本法制定後30回目の報告であることから、森林・林業、木材産業の30年の変化を検証しつつ、森林と木の時代を目指して、成長する国内の森林資源の持続的な経営、林業経営（林業主業型、農業等複合型、森林組合等主導型）の課題、労働力対策、木材産業の近代化、木材の利用促進等について記述。

平成6年度 森林文化の新たな展開を目指して

森林を保全しながら、有効に利用していく技術、制度、生活様式等の総体を「森林文化」として位置づけ、これを担う林業、木材産業、山村の現状を踏まえて、今後の展開の方向を記述。

平成7年度 林業、木材産業の活性化に向けて ～木材利用の推進と安定的な木材供給体制の整備～

木材需要構造等の変化を踏まえ、木材利用の推進、安定的木材供給体制の整備、林業経営基盤の強化、林業労働力の確保と林業事業者の育成により林業、木材産業の活性化を図るべきことを記述。

平成8年度 木材の消費・流通構造と国産材供給の課題

木材の需要及び供給の動向及び木材の加工・流通の現状を踏まえ、国産材供給の課題とその克服に向けて必要な取組等について記述。

平成9年度 国有林野事業の抜本的改革

国民共通の財産である国有林野の新たな体制を確立し、国民の要請に応え得る「開かれた国有林」の実現に向けた国有林野事業の抜本的改革の方向や取組等について記述。

平成10年度 木材の利用推進と森林の適切な整備 ～木材を軸とした循環社会の構築に向けて～

健全で多様な森林を21世紀に引き継いでいくためには、森林の整備が必要であり、そのためには木材の利用推進が重要との視点に立ち、健康に良く環境保全に貢献する木材の利用推進に向けた取組の現状や課題等について記述。

平成11年度 世紀を超えた森林整備の推進 ～安全な国土と豊かなくらしの実現に向けて～

戦後の国民生活と森林・林業の関わりの推移を踏まえつつ、世紀を超えて森林活力を維持していくためには新たな政策の構築が必要であること等について記述。

平成12年度 これまでの林政の推移と新たな基本政策の方向

旧林業基本法が制定された背景とその後の情勢の変化等について整理するとともに、新たな政策の基本理念と、その実現に向けた施策の展開方向について記述。

平成13年度 森林と国民との新たな関係の創造に向けて

森林や木材と人とのかかわりから説き起こすとともに、新たな政策の基本理念に沿って、森林の多面的機能の持続的発揮と林業の発展、木材の供給・利用の確保、山村の活性化に向けた動向や課題等について記述。(基本法の改正)

平成14年度 世界の森林の動向と我が国の森林整備の方向

減少・劣化を続ける世界の森林の現状を分析した上で、持続可能な森林経営の推進、我が国の国際貢献、国内の森林整備の必要性等について記述。(トピックス新設)

平成15年度 新たな「木の時代」を目指して

木材消費量が減少した要因を分析した上で、現在の社会における環境や健康問題に対する木材利用の有効性や、木材利用の新たな動きを整理し、現代のニーズにあった木材利用の必要性を記述。

平成16年度 次世代へと森林を活かし続けるために

山地災害が各地で発生した中、我が国の森林、特に人工林が量的に充実する一方で手入れが必要な状況を説明。その上で、林業に携わる人々が今後も山村に定住し国民の支援を受けつつ、森林の整備・保全を続けていくことが必要であることを記述。

平成17年度 国民全体で支える森林

森林の整備・保全が急がれる中、これを進めるためには、国民の支援が必要であることを提示。その上で、国民それぞれが今できることとして、具体的に地域材利用、森林づくりへの直接参加、森林づくり活動への支援を示し、実行していくことの重要性を記述。

平成18年度 健全な森林を育てる力強い林業・木材産業を目指して

健全な森林を育成するための林業・木材産業の改革の方向として、素材生産・流通・加工の低コスト化や品質・性能の確かな製品の安定供給体制の構築などを示すとともに、国産材利用の意義について示し、林業・木材産業関係者を始め企業・国民等が一体となった健全な森林づくりの取組の重要性について記述。

平成19年度 林業の新たな挑戦

森林の地球温暖化防止等の機能に対する要請の高まりや国産材原木に対する木材産業等の期待が高まる中、林業には、森林整備の適切な実施や国産材の安定供給を持続的に担っていくことが求められている。このため、これからの林業に求められる新たな姿を提示するとともに、林業の果たす役割や重要性について記述。